

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	管理会計論Ⅱ Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0121		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	大原簿記学校監修「日商簿記検定2級商業簿記テキスト」大原出版				
担当教員	長谷川 博				
到達目標					
1. 株式会社の純資産や企業結合、税金について理解し、正しく会計処理ができる。 2. 決算手続きおよび財務諸表の意義を理解し、各財務諸表の作成が十分にできる。 3. 連結会計についての意義を理解し、十分に正しく会計処理ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	株式会社の純資産や企業結合、税金について理解し、十分に正しく会計処理ができる。		株式会社の純資産や企業結合、税金について理解し、正しく会計処理ができる。		株式会社の純資産や企業結合、税金について理解が不十分で、正しく会計処理ができない。
評価項目2	決算手続きおよび財務諸表の意義を理解し、各財務諸表の作成が十分にできる。		決算手続きおよび財務諸表の意義を理解し、各財務諸表の作成ができる。		決算手続きおよび財務諸表の意義を理解が不十分で、各財務諸表の作成ができない。
評価項目3	連結会計についての意義を理解し十分に正しく会計処理ができる。		連結会計についての意義を理解し、正しく会計処理ができる。		連結会計についての理解が不十分で、正しく会計処理ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ビジネス界で評価の高い日商簿記検定2級を取得できることを目標に、そのうちの商業簿記の範囲を網羅する。本講義では、経営活動がどのように営まれるかをふまえながら、企業の経営活動がどのように記録、報告されるかを学習するために、生きた簿記の技術を身につけることを目標とする。				
授業の進め方・方法	当科目と並行して工業会計論を修得し、日商簿記検定2級を取得することを推奨する。2級合格に対応できるレベルで講義を進めるため、進度を極端に遅くするわけにはいかない。授業の進度に極力ついてくように予習復習を行うこと。授業進度は範囲の網羅を優先し、検定受験の際には希望によって対策を行うことを想定している。事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。(授業外学習・事前) 授業内容を予習(進む予定の箇所のテキストを読み、理解しにくい点を明らかにしておく)。(授業外学習・事後) 授業内容に関する課題(ワークによる演習とレポート作成による振り返り)。				
注意点	2級ではボリュームが大幅に増え、かなりハードになる。選択学生は、簿記の上位級を身につけることの有利さを理解し、相応の覚悟と目的意識を持って臨んでもらいたい。必要なのは、計画的に学習する意欲とそれを継続する意志なのである。評価が60点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を60点とする。評価方法及び評価基準は、本試験と同じとする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 固定資産(2)		リース会計、無形固定資産、ソフトウェア、投資その他の資産について理解し、正しく会計処理ができる。
		2週	為替換算会計		外貨建取引、為替予約について理解し、正しく会計処理ができる。
		3週	引当金		引当金について理解し、正しく会計処理ができる。
		4週	法人税等		法人税等について理解し、正しく会計処理ができる。
		5週	税効果会計		税効果会計について理解し、正しく会計処理ができる。
		6週	株式会社の純資産		株式会社の資本について理解し、株式の発行、株主資本の計数の変動について理解し、正しく会計処理ができる。
		7週	剰余金の配当等		剰余金の配当等について理解し、正しく会計処理ができる。
		8週	中間試験		中間試験
	4thQ	9週	企業結合		企業結合について理解し、正しく会計処理ができる。
		10週	株主資本等変動計算書		株主資本の計数の変動について理解し、正しく会計処理ができる。
		11週	連結会計		個別財務諸表と連結財務諸表について理解し、説明できる。支配獲得日の連結手続きが正しくできる。
		12週	連結会計		支配獲得後の連結手続き、および連結1年度、連結2年度の会計処理が正しくできる。
		13週	連結会計		連結会社相互間取引の相殺、および未実現利益の消去について理解し、正しく会計処理ができる。
		14週	本支店会計		本支店会計の意義について理解し、決算手続き、総合損益、合併財務諸表の作成までの会計処理を正しくできる。
		15週	期末試験		期末試験
		16週	期末試験の解答		試験返却
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	15	55
専門的能力	30	0	0	0	0	15	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0